

賛育会ニュース

SAN-IKUKAI News



Vol. 638
2016 Autumn

社会福祉法人 賛育会
広報誌



実りの秋、笑顔の実を实らせよう

あなたの父母を敬え

第二清風園 施設長 中村基信



「敬老の日」が国民の祝日に制定されて今年で50年になるそうです。世界の中でも「高齢者を敬う日」を休日としているのは日本だけで、我が国が長寿世界一を続ける理由は案外こんなところにあるのかもしれない。

聖書の中に「あなたの父母を敬え。そうすればあなたは、あなたの神、主が与えられる土地に長く生きることが出来る」(出エジプト記 20章 12節) という聖句があります。全ての人が誰かの子どもです。そして、誰一人子どもを選べる親も、親を選べる子どももいません。神様は私たちにこの世で偶然出会う最初の隣人として父母を与えてくださり「あなたの父母を敬え」と教えています。

子どもは親に愛され、守られ、時には反発しながらも強い影響を受けて成長します。自立の扉が見える頃、ようやく子どもは素直に親に感謝できるようにになり、親子が互いの人生を見つめ合う頃、初めて子どもは親を敬うことができるのではないのでしょうか。もちろん、そんな時期が来る前に親と別れたり、生涯疎遠な親子もいるでしょう。しかし、人は一人では生きられません。必ず父母のように支えてくれる方がいるのです。かつての日本は二世代、三世代の家族が同居し、子どもたちが親の人生を身近に感じて生きていました。

日本は親を敬うことが自然な国であり、敬老を大切にしている国になりました。

「敬う」とは相手を尊んで礼を尽くすことです。高齢者施設では世間的には立派な大人になった「子ども」が親を敬う姿に度々遭遇します。面会の時、何気ない言葉や立ち振る舞い、手をさすり、食事介助をする姿。どの姿からも偶然出会った親子が、いつしかその親子にしかわからない方法で、お互いを尊び、礼を尽くそうとする想いが伝わってくるのです。

賛育会は「隣人愛」を理念としています。言葉では知っていても偶然出会うご利用者に愛を持って接することは容易いことではありません。しかし、私たちが偶然与えられた自分の父母と接するように、偶然出会うご利用者と接することができるなら、自然とご利用者を敬うことができるはず。高齢者施設で働く私たちは、自分の父母にしてほしいことをご利用者にもしたいと思えます。

敬老の日は若い子どもたちが祖父に感謝するだけの日ではありません。今は大人になったかつての子どもたちが、夫々の親を想い、あらためて父母を敬う日でもあるのではないのでしょうか。

熊本震災支援報告会

2016年8月26日、一連の支援活動の総括と今後の支援の在り方を探る事を目的として報告会を開催。東京清風園の主会場31名、TV会議で各事業所から25名、計56名が参加しました。熊本YMCA法人本部長の太塚永幸主事をお招きしてお話をお聞きしました。太塚主事は、災害対策本部のメンバーとして、避難所となった益城町総合運動公園での活動を指揮されました。

地震発生時、組織内で交わされた情報や写真等を映しながら、熊本YMCAが経験した災害時の現実についてお話しくださいました。情報システムで交わされた職員の安否



確認の状況、各拠点の被災状況の報告など、生々しいデータが紹介されました。被災状況が徐々に把握されていく一方、職員自身が被災したり、道路の分断などで、職員を必要

な拠点に集中させられず、その場に居た限られた人員での対応を余儀なくされた逼迫した状況が語られました。十分な体制が作れないまま避難者を受け入れ、天井の破損で体育館を封鎖した翌朝、フロアに天井材が落下していたというギリギリの判断をし、出入りや移動がある避難者の全体把握の困難に直面する等、多くの課題が同時多発的に起きてくる状況は、私たちがBCPの中で改めて想定すべき多くの課題を示すものでした。

太塚主事のお話に続き、パネルディスカッションが行われました。派遣された職員が、自らの専門分野を活かし、あるいは専門分野を越えて、その時々に応じて必要な支援活動を懸命に行った経験から多くの学びを得てきたことが伝わってきました。これらの経験を持った職員が、各施設に居る…そのことが賛育会の大きな財産にもなった事が感じられました。

職員を連続して派遣するような形での支援活動は、7月10日の第23期をもって終了しましたが、復興支援は、仮設住宅での生活支援へとステージが変わっていきます。今後もYMCAとの連携を軸に、私たちができる支援を継続して行っています。

清風園夏祭り

8月28日(日)清風園にて「夏祭り」を開催しました。「地域の一員として」を私たち職員一同の合い言葉とし、清風園が地域の中で活動する施設として、地域住民や地域団体との交流を行なうことで、より地域に認識・理解され地域に開かれた施設にしていこうことを目的としました。また今年度は「清風ヒルズ金井」にここ「清風食堂」がオープンした為、地域の方に知ってもらおう事、子供達も大勢参加してもらおう事を目的に夕方の開催としました。さらに法人内の連携を深めていく事も目的とし、今回は都内だけでなく豊野、東海の職員も含め総勢20人もの職員の皆様が応援に来て何かしらの役割を持ち、清風園の夏祭りを一緒に盛り上げ支えてくれました。

当日の天気は曇りと雨の予報。午前中は小雨が降る中、準備開始前の職員ミーティングで吉田施設長から「雨はやみませ。降りません。そのように言えば降らないんです。」と力強く宣言。

施設長、そして私たちの強い願いが天まで届いたのか、テント準備中もポツポツ降っていた雨は開始2時間前には止んで、大勢のご利用者の皆様、地域の皆様を足運んでくださいました。名物である清風焼や焼きそば、カキ氷などを提供し、催し物として学生による吹奏楽やチャリデーイング、町



内会の皆様による盆踊りなど参加された方々に喜んでいただきました。子供向けのゲームコーナーは景品を狙って行列ができ、フリーマーケットやマツサージコーナー、健康相談コーナーもお客さんが途絶えませんでした。また清風ヒルズのロビーでは、はやぶさ2に関するDVD上映やパネル展示を行ない、はやぶさ2プロジェクトマネージャー(総責任者)である津田雄一氏をJAXAよりお招きし、講演会を行いました。準備した席が足りず、立ち見も出るほどの盛況ぶりでした。子供から年配の方まで幅広く楽しんでいただける祭りとなりました。

今回ご協力いただきました多くの皆様に、心よりお礼申し上げます。

クローズアップ◆賛育会

「認知症当事者と地域の課題に取り組み」

町田市鶴川第1高齢者支援センター（地域包括支援センター）は在宅で生活をする高齢者、家族の相談窓口として第二清風園内にあります。介護相談だけでなく、介護予防の普及啓発、地域の社会資源の紹介など、その業務内容は多岐にわたります。

保健師の藤田直さんは、ここで他8名の専門職と

一緒に活動しています。

藤田さんは、今年に入りMCIRE（軽度認知障害）の認知症相談が増えてきた事に気づきました。当事者は認知症と診断された事に不安を抱いて、認知症である事が否定してしまいました。認知症は人格が崩れるといったメディアからの偏った情報で不安になってしまったのです。

また、若年性認知症の場合は、せつかく相談を受けても、近隣の一般的なデイサービスは高齢の方向けのプログラムで、60代の当事者には、紹介できる所が無いという問題にぶつかりました。

介護保険のデイサービス利用はまだ早いけれども、それに代わる居場所が地域には必要だ。仲間が集まれば「認知症と診断されてもへっちゃら！」と感ぜてもらえるような居場所。そこそが、認知症の進行を遅らせることができる鍵になると考えました。そこで、新しく居場所を作って、同時に正しい認知症に関する知識の普及啓発を進めて行くことにしました。

町田で既に活動している「認知症とともに歩む人々本人会議」の当事者の方々に相談し、まず高校生を対象に認知症サポーター養成講座を開催しました。そこで当事者の方に、認知症と診断された時の気持ちや将来への思いについて話をしていたいただきました。講座終了時には、



保健師の藤田直さん

高校生から「認知症について怖いイメージがあったけれど、診断されても少しサポートがあれば自分のやりたい事が出来る事が分かった」と感想があり、彼らの中で認知症の認識が変化したことを感じました。

続いて、見学に行った仙台市の「おれんじドア」を参考に、今年5月から準備を始めて、9月から当事者同士が語り合える居場所「おれんじドア町田」を立ち上げました。

当事者・ボランティア・NPO法人そして賛育会の町田事業所が共同し、「認知症と診断されても家に閉じこもって行かないで、仲間と一緒に声を出して行こう！」を合言葉にして、毎週金曜日、清風園の一室で開催しています。

「私たち支援者は当事者の気持ちに寄り添う事は出来るけれども、気持ちや分り合えるのは当事者同士だからです。今後も正しい知識を地域に届けながら、新しい仲間を待っています。」と藤田さんは語っていました。

ピックアップ

新入職員の声！ Vol.11

2016年4月から一緒に働く新しい仲間の声をピックアップでご紹介



作業療法を通して、ご利用者様がその人らしく生きていくことを支援していきたいです。
老人保健施設ゆたかの
タカハラ カズキ
高原 一樹(作業療法士)
(2016年4月採用)



入社して4ヶ月が経ちました。未熟な面もありますが、笑顔で頑張ります。
老人保健施設ゆたかの
ツチヤ カオリ
土屋 香緒莉(介護員)
(2016年4月採用)



少しでも患者さんのお役に立てるように頑張ります！
賛育会病院 5階病棟
サカイ カズヒコ
酒井 和華(助産師)
(2016年4月採用)



お薬の観点から医療を支えられるようがんばります！
賛育会病院 薬剤科
コヤマ カズユキ
小崎 柔葉(薬剤師)
(2016年4月採用)



子どもたちの心に寄り添い、支え、ご家族と共に子どもたちの成長を喜びあえる保育士でありたいと思います。よろしくお願いたします。
さんいっく保育園清澄白河
シマダ サツコ
島田 佐絵子(保育士)
(2016年4月採用)



一つ一つできることが増えていく子どもたちと一緒に、保育士1年目、子どもたちに負けたくないの実績と元気で成長できるように頑張ります。
さんいっく保育園清澄白河
ネモト アユミ
根本 歩実(保育士)
(2016年4月採用)

海外視察団が来園しました

東京清風園は移転して4年目を迎えました。綺麗で広い施設は、連日いろいろな所から見学の方がいらつしやいます。

9月には2日に全国社会福祉協議会からの依頼で台湾から、7日に公益法人協会からの依頼で中国から海外視察団の皆様が来園されました。海外からは他に韓国からの視察団が何度も来園しており、賛育会の視察といえば、必ず東京清風園が視察施設の一つになっています。

施設見学は、施設長が施設概要、事業内容等の説明を行ったあと、設備、介護用品、サービス提供の様子を直接見て回ります。海外からの視察団の方は、全てのことを目新しい様子で、サービスの内容、介護設備、それにかかる費用等、様々な事に興味を示され、いろいろな質問をされていました。また、意外なところで興味を引かれていたのは折り紙で、施設内に飾られている折り紙はもろろんのこと、職員が使節団の方向けに用意した折り紙を差し上げたところ、大変喜んでいらつしやったのが印象的でした。



台湾施設見学の皆さまと

「賛育会」

フォトコンテスト2016 開催のお知らせ

昨年まで開催していた広報コンテストに代わり、今年度は法人広報委員会主催で、写真コンテストを開催します。『賛育会が働き甲斐のある職場、利用者にとって安らげる場所、楽しい雰囲気の写真として表現すること』を目的とした、全施設の賛育会職員が応募可能な写真コンテストです。

応募部門は、職員の皆さまが活き活きと働いている姿を捉えた「職員いきいき部門」、ならびに利用者・患者・園児たちの笑顔を捉えた「利用者スマイル部門」の2部門で、入賞作品には賞金があります。

金賞3万円(各部門1点)
銀賞2万円(各部門1点)
銅賞1万円(各部門1点)

詳細は、各施設の広報委員にお問合せ頂き、応募要項をご覧下さい。

【応募期間】

2016年9月1日～12月31日

【結果発表】

2017年3月1日

【表彰】

2017年3月18日
創立記念式典にて入賞者を表彰します。

【作品紹介】

入賞作品は、San-iku通信2017年度春号および夏号にて紹介します。
皆さま奮って応募ください。

主要人事

2016年度理事会(5月11日、7月1日、9月28日)において、次の人事が決定しました。

2016年4月1日付

○マイホーム新川施設長 藤田寿彦
法人事務局法務担当部長兼務とする。

○たちばなホーム施設長 羽生隆司
中央墨東事業所経営会議議長とする。

2016年6月30日付

○清風園生活課長 佐々木真代美
依願退職

2016年7月1日付

○賛育会病院看護科長 島美奈子
賛育会病院副看護部長兼務とする。

○賛育会病院看護科長(嘱託)
石引麻里子
賛育会病院副看護部長兼務とする。

○賛育会病院看護主任 奈良部 幸子
賛育会病院看護科長とする。

○たちばな高齢者在宅サービスセンター長 赤荻 佐和
たちばなホーム介護課長とする。

○清風ヒルズ金井管理者 石原 浩司
第二清風園居宅介護支援事業所管理者(課長)とする。

2016年10月1日付

○横浜メディカルグループかわさき記念病院看護部長 古屋 節子
賛育会病院看護部長として採用。

○富山医療生活協同組合富山協立病院 黒田 昌弘
賛育会病院看護部長として採用。

○豊野病院内科部長として採用。

○賛育会病院 事務部長室 課長 木口 圭子
賛育会病院 事務部 事務次長とする。

2016年10月15日付

○池新田デイサービスセンター長兼
佐倉デイサービスセンター長
横田 絹代
依願退職

2016年11月1日付

○池新田デイサービスセンター係長
(生活相談員)兼管理者 栗山 政子
池新田デイサービスセンター長兼
佐倉デイサービスセンター長とする。

法人・事業所行事

2016年

10月2日 賛育会まつり(豊野事業所)
10月8日 プレイデイ(さんいく保育園清澄白河)

10月16日 オープンハウス(はなみずきホーム)

10月16日 オープンハウス(マイホーム新川)

10月23日 秋祭り(第二清風園)

10月30日 さんいくフェスタ(東海清風園)

10月30日 たちばな祭(たちばなホーム)
11月1日 賛育会チャリティーコンサート2016

11月18日 収穫感謝祭(さんいく保育園清澄白河・有明)

12月10日 クリスマス会(さんいく保育園清澄白河・有明)

12月10日 健康講座(賛育会病院)

賛育会ニュース 第638号 2016年秋号
編集発行人 西原 良信

発行所 社会福祉法人 賛育会
東京都墨田区太平3-17-18
電話 03-3622-1761

印刷(有)エースプリント